

「東アジアジュニアワークショップ報告書」

法学部 3回 成宮里美

私自身は法学部に所属していますが、他学部聴講という形で、文学部の社会学の授業の一環として毎年開かれる東アジアジュニアワークショップに今回初めて参加させていただきました。今年のワークショップは台北で4日間にわたり開かれ、前半2日間は国立台湾大学の学生の皆さんが企画してくださった台北見学ツアーに参加し、観光地としてはなかなか取り上げられないことのない場所を案内していただきました。そのなかでも印象的だったのは、台北駅近くにあるリトル・インドネシアです。インドネシアからの移民の方がたくさん集まる場所で、屋台の食べ物もインドネシアのものでした。また台北駅1階の広場には、大勢のインドネシア人が集まっており、家族や友人との会話を楽しむ光景が見られました。あまりに多くの人が床に座っている光景を見て、初めは電車を待っている人たちだと思いましたが、台湾大学の学生から、住み込みで働いている多くのインドネシア人女性が日曜日にはこうして無料で空調も効いている台北駅の広場に出てきて思い思いの時間を過ごすのだということを知り、まだ移民を多くは受け入れていない日本では見られない状況に驚きました。後半の2日間は、台湾大学・ソウル大学の社会学専攻の学生と合同でワークショップを開催し、それぞれが今年のテーマである「労働と移動・家族」に関して自身が行ってきた研究についてプレゼンテーションを行いました。私自身は、日本・韓国・台湾における女性の働き方の違いについて、ワークライフバランスの観点から発表しました。発表後のディスカッションでは教授からの質問に答えられず、私に代わって台湾大学の学生が意見してくれ、もっと勉強し、準備をして臨まなければならないということを感じました。

今回のジュニアワークショップには、東アジアの3国出身の学生だけではなく、そこに留学に来ているアメリカやヨーロッパの学生が多く参加しており、発表や移動時・夕食時の会話など基本的には英語で過ごすことが多かったため、語学という分野でもとても勉強になりました。また英語でプレゼンテーションを本格的に行うことを基礎から学べたうえ、社会学でよく使われる英語の語彙を覚える機会にもなり、自分が勉強してきたことを英語で説明できるようになることの重要性も感じました。約4か月間の合同授業と台北でのワークショップを通し、様々な国の学生と共に、国際的な比較を多く目にしながら学んだことで、労働や移動に関する社会問題や家族の在り方について新たな視点を発見し、さらに関心が深まり、また彼らの知識や研究の仕方の質の高さを知ったことで、これからの自身の学び方を改めて見直す機会となりました。プレゼンテーションの練習を見てくださった京都大学文学部の先生方や、貴重な機会をくださった3大学の先生方、主催してくださった台湾大学の学生の皆さんに感謝しています。来年京都大学が主催となる際には、ホスト校の学生として、ワークショップに携わり、貢献できれば嬉しいです。ありがとうございました。